

令和 7 年度 第 2 回中城御殿跡地整備検討委員会

上之御殿エリアの整備

1. 部会における上之御殿北側の検討概要
2. 東側擁壁（新たな遺構）

1-1. 部会における上之御殿北側の検討概要（資料1R7検討部会概要）

● 第1回検討部会（2025年11月12日開催）の議題と主な意見

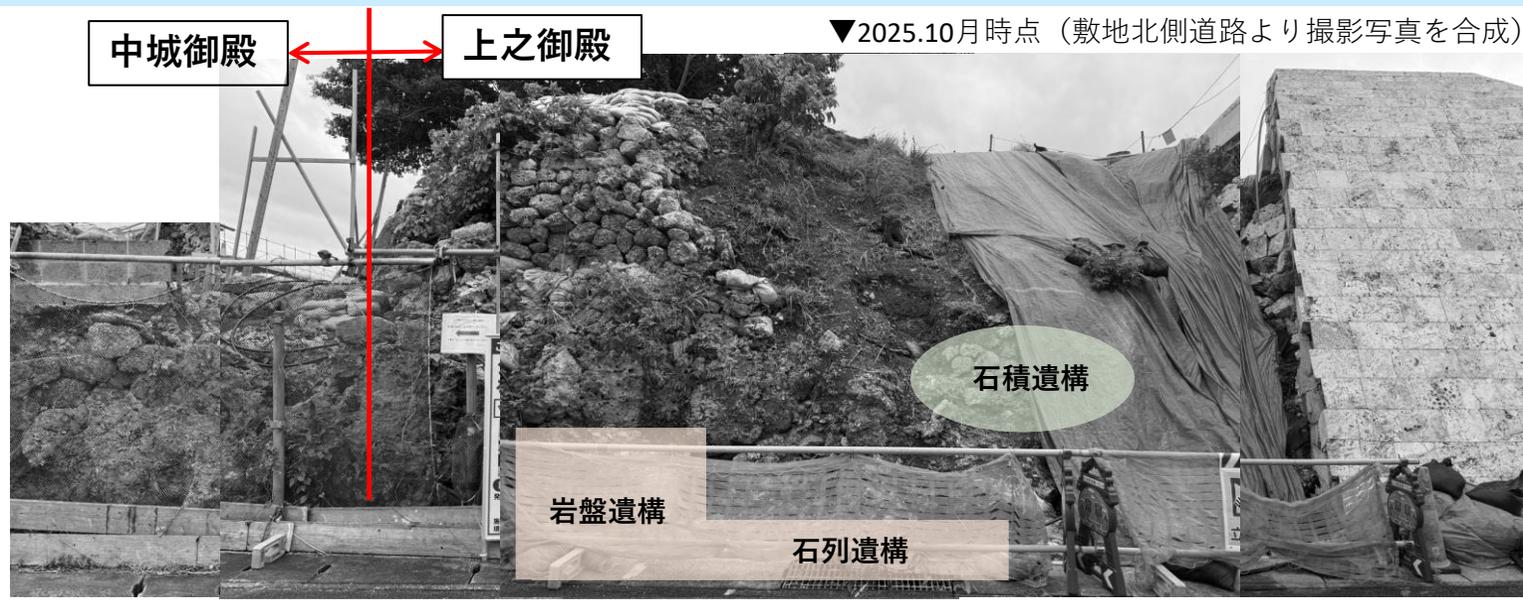
< 現場確認について >

- 根石の上に石積を行い、往時の再現石積の範囲を広げる。
- 後付けとわかるよう、石積天端に凹凸を付けた状態に仕上げる。

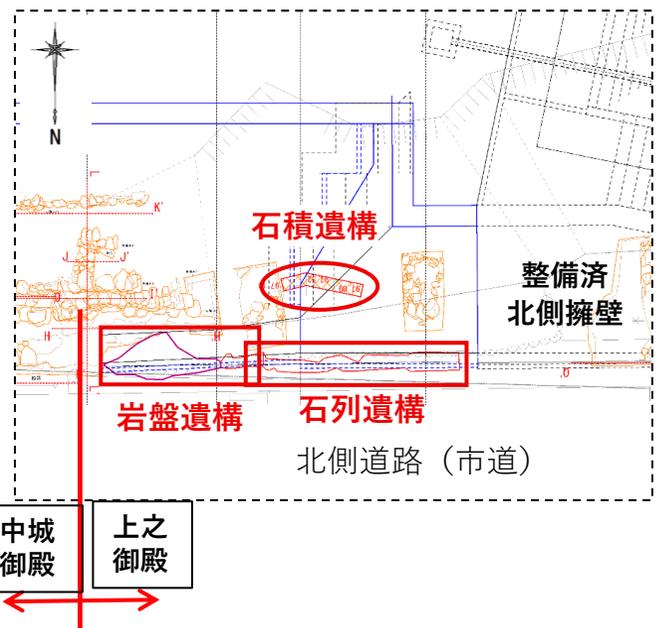
< 石積・擁壁の形状について >

- 防護網について、保護、落石防止及び遺構を見せる目的として設置する。（遺構保護と安全面の両立）
- 石積以外の法面については、風雨による浸食を防ぐ目的で植生を吹き付ける。
- 現代工法と石積工の境目について、石の凹凸を付けた状態で仕上げる。
- 今後、史跡指定を目指して整備を進めていく。

1-2. 上之御殿北側の遺構確認状況



▼位置関係 (遺構図)



1-3. 擁壁工の検討

- 北側擁壁に見つかった遺構がより明確になったため、【岩盤遺構】【石列遺構】【石積遺構】に分類した。
- 遺構範囲の拡大を受けて、遺構を保護・活用して石積みを行う範囲及び擁壁（現代工法）設置範囲の再検討を行った。
- 検討の結果、出現した遺構への影響が最小限となる**ケース2**を採用することとした。

ケース1の場合

擁壁基礎の位置が、石積遺構及び石列遺構に影響するため。
(一部掘削や撤去が必要。)

一番影響の少ない**ケース2**を採用。

(石積遺構及び石列遺構への影響を最小限とするため、裏込めには軽量材、基礎にはマットレス工法を採用)



【※R7第1回検討委員会】

ケース1

擁壁工
(現代工法)

ケース2

(新たな)
石積遺構

高さ
1.7~
1.9m

(新たな)
石列遺構

擁壁工
(現代・石張)
※基礎が見えるため目隠し

高さ
1.7~
1.9m

石積工
(空積工法)

擁壁工
(現代・石張)
※基礎が見えるため目隠し

5.1m

1.76m

1-4.法面工・石積工について

- 現代工法ケース2 採用のため、石積工の範囲を広げる。(遺構保護)
- 他は当初より変更なし



○積み直し (文化財課立合)

落石防護網を設置

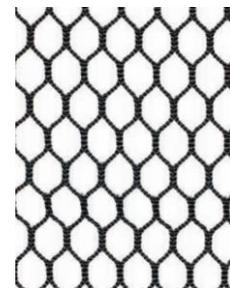
○連続繊維補強土 + 植生吹付工

○石積 (空積み) 工

下部は大きめ石

上部にいくにつれて小さめの石とする。

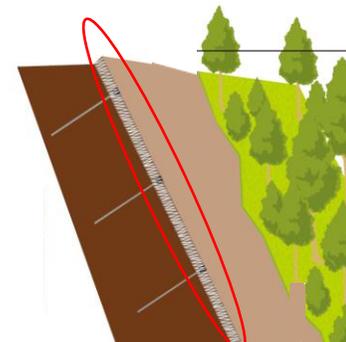
(石積5から繋げて、擁壁工との取合箇所工夫)



防護網



事例



繊維補強土



2. 東側擁壁（新たな遺構について）

（現場調査の結果）

○新たに状態が良い水路等の遺構が出現。

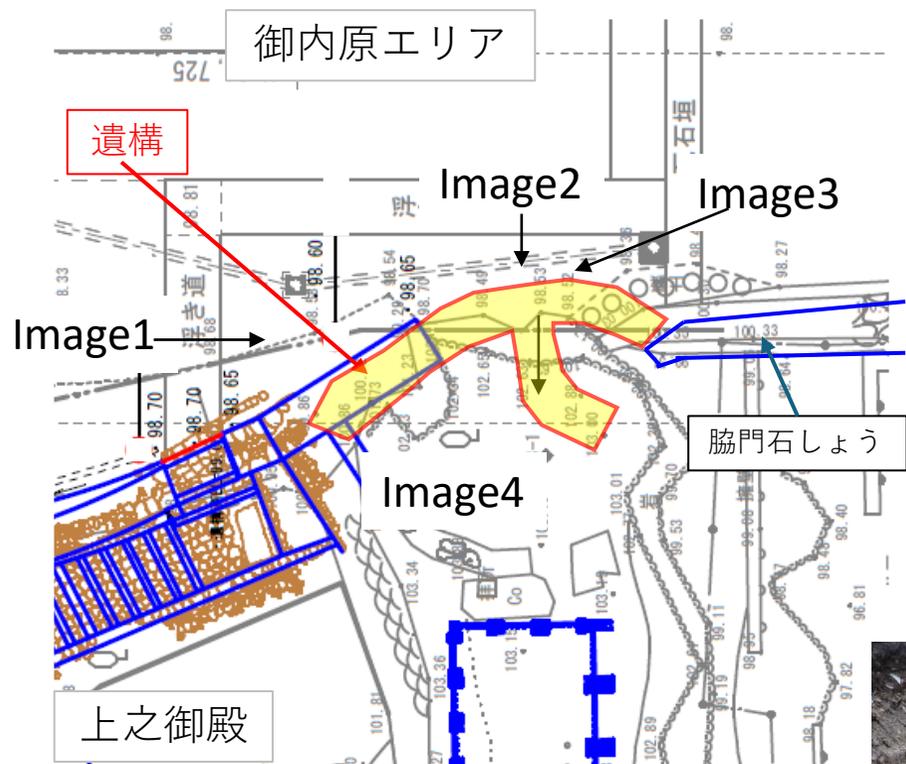


image1



image2



image3



image4

○遺構調査実施中

県文化財課にて、保存活用方法を検討中。